

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 3 1 年 1 月分）

### 【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

### 【製造業】好調さを維持する一方で、受注の鈍化等の懸念もある

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数では、化学工業や鉄鋼業が前月比上昇したものの、その他多くの産業が低下した。ヒアリングにおいては、これまで同様、好調な業績を維持してきた企業の中にも、米中貿易摩擦の長期化や中国市場の減退に伴い、受注等について、足元での低下や将来的な影響を懸念する企業も見られる。

### 【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、鉱工業生産指数でパルプ・紙、家具、木材・木製品以外は前月比横ばいもしくは低下となった。展示会等への出展等、各企業に動きがあるものの、暖冬の影響や原材料費の高騰、人手不足等の要因から全体的に厳しい状況が継続している。

### 【設備投資】投資意欲の減退が懸念される

○設備投資は、来年度に向けた設備投資計画を検討する企業が多く見られるが、工作機械受注額については、2ヶ月連続で前年を下回り、国内向け、海外向けともに陰りが見え始めるなど、今後は投資意欲の減退が懸念されている。

### 【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、年末における需要の伸びの中で、家電大型専門店やドラッグストアが牽引し、全体としても前年同月を上回った。ただし、売上高や販売価格における直近期のD I 見通しは悪化傾向にある。

### 【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、前年と比較し休日の日数が2日多く、週末が3連休となるなどしたため、観光客数は前年同月比3ヶ月連続で、宿泊客数も同比2ヶ月連続で前年を上回った。

### 【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、米中貿易摩擦や消費増税、英国のEU離脱問題等様々な外部要因による影響も懸念される。

### 【雇用】人手不足の状態が慢性化している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、採用活動が困難を極めており、業種を問わず、依然として人手不足が慢性化した状態となり、外国人労働者の雇用に対しても関心が高くなっている。